

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23500685

研究課題名(和文) 占領下オーストリアにおける学校体育に関する歴史的研究

研究課題名(英文) A historical study of school physical education in Austria during the period of the occupation 1945-1955

研究代表者

鈴木 明哲 (SUZUKI, Akisato)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：70252947

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はウィーンのオーストリア国立公文書館所蔵の史料を使い、第二次大戦後、オーストリアにおける学校体育の復興過程を分析した。特に1945年以降1955年まで、オーストリアが連合国による占領下にあったことを重要な分析視角に設定した。本研究では新たに、アメリカ占領軍政府がオーストリアの学校体育に自国由来の教育理論や体育実践、特にグループ学習のシステムやバスケットボールなどを導入しようとしていた事実の存在が明らかとなった。また、戦後オーストリアにおける学校体育復興に関する別の重要な局面は、体育館付設数の少なさであり、オーストリア学校体育が長年にわたり抱えてきた慢性的な問題であることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：This study used historical materials owned by Austria National Archives in Vienna, and analyzed that the process of the reconstruction about school physical education in Austria after the Second World War. Especially the important perspective in this study is the fact that Austria occupied by the Allied Powers from 1945 until 1955. I find that new historical fact is the military government of USA in Austria had attempted to introduce American theories and practices of school physical education that were group learning system, basketball and so on. This study has suggested that another significant aspect of the reconstruction of school physical education in Austria after the Second World War was only a small number of establishing gymnasiums attached to the schools in all Austria. It is likely that lack of gymnasium is a chronic problem for a long time in Austria.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 身体教育学

キーワード：4ヶ国占領下 オーストリア 戦後 学校体育 歴史的研究 自然体育 アメリカ 体育館

### 1. 研究開始当初の背景

1945年以降、敗戦国における戦後の学校体育復興を研究する際、しばしば比較対象としてドイツの事例が取り上げられるが、この大国の陰に隠れて忘れ去られているのがオーストリアである。1938年にナチス・ドイツに併合され、第二次世界大戦の加害国、被害国、両方の側面をもつ複雑な戦後復興を経たと考えられるこのオーストリアという国の戦後学校体育復興はこれまでほとんど注目されることはなかった。

加えてオーストリアは、1920年代に世界的に有名な「自然体育」の理論と実践を体系化し、同時代のアメリカにおける「新体育」の理論と実践と双璧をなす世界的、学校体育史的遺産を有している。だが、これまでの研究は戦後直ちに1920年代の「自然体育」に回帰する動きがあったことを指摘するに止まっており、1955年までオーストリアが連合4カ国の「占領下」にあったという重大な歴史的視点を欠いている。「占領下」であれば占領国から非占領国への、ある一定程度の抑圧は当然想起されてしかるべきであり、オーストリアの学校体育復興もこの抑圧下で展開されたと考えるのが妥当である。であるならば、「自然体育」への回帰は首尾よく進化したわけではなく、占領政策下という抑圧のもとで様々な葛藤や軋轢のもとで進化したと考えられる。とりわけアメリカ占領地域では、オーストリアの「自然体育」とアメリカの「新体育」という、1920年代における世界の学校体育をリードした二つの理論と実践が雌雄を決すべくぶつかりあったであろうという、世界体育史的に見てもこの地域のこの時代でしか起こりえなかった非常に興味深い史実の掘り起こしが期待できると考え、このテーマを構想するに至った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、第二次世界大戦後の4カ国占領下オーストリアにおける学校体育の復興過程について、(1)未開拓資料を体系的に調査・収集・整理し、(2)その資料を「占領下」という新たな視点から検討、考察を加えることで、(3)これまでつまびらかでなかった戦後オーストリアの学校体育史研究に新境地を開くことにある。研究対象期間は1945年4月のオーストリア解放から、1955年5月の占領終結までであり、特にアメリカ占領地域に焦点を当てながら、在米資料と在オーストリア資料の双方を発掘・収集し、体系的に整理しながら、オーストリア学校体育の戦後復興をアメリカ占領政策との葛藤や軋轢、矛盾を明らかにする。

### 3. 研究の方法

平成23年度は体育史に限定せず、広く占領下オーストリアに関する先行研究(英文・独文)を収集・分類・整理し、詳細にわたり検討することで在米資料を発掘するための

予備調査を行う。平成24年度は前年度の成果を踏まえた上で、在オーストリア資料を発掘するための予備調査を行い、なおかつ在米資料の本調査を行う。この時点で在米資料の収集を完了させ、占領国側の視点からそれぞれの資料を分析し、次年度以降に実施する検討、考察に備える。平成25年度は在オーストリア資料に関する本調査を行い、被占領国側の視点からそれぞれの資料を分析し、検討、考察する。最終的に学校体育復興に関するオーストリアとアメリカの思惑がいかんにして衝突、葛藤や矛盾を経てどのようなところに帰結していったのかを、オーストリアの「自然体育」とアメリカの「新体育」とのせめぎ合いを軸として検討、考察することで研究目的を達成する。

### 4. 研究成果

以下では資料収集の状況、および学会における二つの口頭発表の概要を研究成果として報告する。

#### (1) 資料収集の状況

当初計画していた資料の収集作業は在オーストリア資料の収集と、在米資料の収集という二本立てであった。しかしながら、実際に収集できたのは在オーストリア資料に属するウィーン大学所蔵資料とオーストリア国立文書館所蔵資料にとどまった。その理由はオーストリア国立文書館に連邦教育省管轄の膨大な資料群の存在が確認できたことにより、当初の計画を変更し、まずは膨大な資料群の整理から着手したためである。

よって在米資料の収集は未着手である。

#### (2) 教育雑誌“Erziehung”の分析

この雑誌は在オーストリアアメリカ占領軍政府がオーストリア全土の学校教員に対して無料配布し、1948年2月から1953年6月までに発刊された月刊誌である。発行目的は民主的、かつアメリカ的教育を告知、公表することにあつた。本研究ではこの雑誌に掲載されていた体育・スポーツに関する以下のような論考について分析を行った。

「体育授業における民主的教育」(1949年4月号)

この論考は“Erziehung”全号を通して体育・スポーツに関する一番長い論考であったが、内容はアメリカで実践されている体育授業の紹介であった。特に体育授業にグループ学習の手法を取り入れながら、将来の民主的社會を構成する担い手の養成というところを強調している。

「オーストリアの学校やクラブにおけるコルプバルの授業」(1949年11月号)

この論考は、在オーストリアアメリカ占領軍政府が自国の代表的スポーツであるバスケットボールをオーストリアに導入、普及さ

せようとしていた様子を伝えている。しかも、その導入、普及が円滑に進むよう、オーストリアでよく知られていた「コルプバル」というボールゲームを引き合いに出しながら、その類似性を説いていたことがわかる。また、在オーストリアアメリカ占領軍政府は導入、普及のために講習会やデモンストレーションゲームなどを開催していたが、これらはアメリカ側の一方的な主導的圧力のもとに進行したのではなく、オーストリア側からの積極的ともいえる同調行動も存在していたことが判明した。

「セミナーにおける討論会」(1951年5月号)

“Erziehung”主催の教員セミナーにおける討論会に関する報告である。自由闊達な意見交換が展開され、オーストリア人体育教師からはアメリカの身体教育に対する批判が述べられるなど、興味深い報告となっている。なかでもオーストリア人教師らは自分達の仕事の現状をアメリカとの対比で検証しようとしていた様子がうかがえる。

#### 小括

アメリカ側はオーストリアの体育・スポーツに対して民主化を推進しようとしていたが、そのための方法がグループ学習の導入であった。また、バスケットボール導入の際に見られたように、オーストリア体育・スポーツの戦後復興は占領軍との共同作業のもとに成し遂げられた側面もあった。

さらにアメリカの身体教育との対比により、オーストリア側は1920年代の教育的かつ体育的遺産に固執しようとする自国教育の保守的側面を自覚させられるという結果も生んでいた。

(3) 1950年前後オーストリアにおける体育館付設状況と体育の授業 「自然体育」との関係を手がかりに

以下は、本研究のテーマに直接関わる研究成果の報告ではないが、今回、オーストリア国立文書館に所蔵されていた膨大な連邦教育省文書の整理をしていく過程で見出された資料に基づく報告である。4ヶ国占領下のオーストリアにおいて、各州から連邦教育省に届けられた学校体育に関する報告書の記述の大半を占めていたのが、ほかならぬ体育館付設状況の悪化であった。

#### 体育館付設状況

1950年前後、オーストリアにおける体育館付設状況は極めて劣悪で、その原因は占領軍による接収、爆撃による破壊などであったが、主因は元々学校に体育館が付設されていないことにあった。しかも、それはまたこの時代に限った問題ではなく、1920年代から継続している慢性的な体育実践上の問題で

もあった。

#### 体育館付設状況と体育の授業

必ずしも十分でない体育館付設状況において、体育の授業は「教室体操」や「10分間体操」など、狭い場所でもできる簡易な運動が主流を占め、しかもこのような実践は雨天時や冬季には体育館が付設されていないがために、頻繁に実施されていたことが明らかとなった。

#### 教本『体育』にみる体育館と体育の授業

1949年に刊行された教本『体育』には、当時の学校には必ず体育館が付設されていなければならないことが記されていた。しかしながら、教本には体育館が付設されていない場合の体育授業に関するモデルも示されており、それは「教室体操」や「10分間体操」などであった。だが、それらは「代用的な運動」、「古くさい徒手体操」とされ、戦後オーストリア学校体育の理念、さらには1920年代のオーストリア学校体育の偉大な遺産である「自然体育」の理念に鑑みると不本意であったことも記されていた。

#### 小括

戦後オーストリアにおける学校体育の実践にとって、最大の問題は不十分な体育館付設状況にあった。ゆえに雨天時や冬季など、屋外での実践が不可能な時には常に簡易な運動の実施に甘んじなければならなかったが、それはまた1920年代以来の理念に適合しない不本意な実践であった。占領軍政府とのやり取り以前に戦後オーストリアにおける学校体育の復興は体育施設の不備という難問を抱えていたことが明らかとなった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

1. 鈴木明哲、1950年前後オーストリアにおける体育館付設状況と体育の授業 「自然体育」との関係を手がかりに、教育史学会第57回大会、2013年10月13日、福岡大学。

2. 鈴木明哲、占領下オーストリアにおけるアメリカの体育改革 “Erziehung”を中心に、日本体育学会第62回大会、2011年9月25日、鹿屋体育大学。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

鈴木 明哲 (SUZUKI, Akisato)  
東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号：7025947

### (2)研究分担者 なし

### (3)連携研究者 なし